芦川支流蛇沢　千波ノ滝IC

2011/2/8
斉藤（記）杉山（無所属）

甲府郊外にある千波ノ滝へ行く計画をたてた。車道から30分のアプローチで150mのマルチが楽しめるなんて実においしい話だ。しかし、他パーティーとのバッティングは困る。そこで、ネットの凍結情報にて登攀可能と知ると平日に有給をとり早速､山行を決定する。

朝、まだ暗いうちに前夜泊地の道の駅より現地へと向かう。車を走らせ暫くは迷ったが、暗闇の中に白く浮かび上がる巨大な氷瀑が、すぐに千波ノ滝である事を確認できた。入山地点を確認すると、車中で夜明けを待つ。夜明けと共に双眼鏡にて偵察する。所々裏の岩が透けて見えて氷がかなり薄いように見える。それより何より思った以上に立っている。「結構、難しそうですね。」とかなり怖気づくが、とりあえず行ってみる事にする。沢の出合より入山し、迷いながらも、約50分で滝の袂にたどり着く。遠望した時に垂直に見えていた部分も近くから仰ぎ見ると弱点も見る事が出来る。休憩をしながらルートを読むと、早速私のリードにて登攀を開始する。1P目は階段状を5m程登ると、早速核心部が始まり、急傾斜部の左上トラバースが始まる。氷が鱗状で登りづらい。スクリューをきめるが、フォールしたら氷もろとも、ふっとぶのでは、と考えてしまい緊張する。急傾斜部を何とか乗り越すと直上し、ロープいっぱいでピッチを切る。テラスやレッジはないのでスクリュー2本でのハンギングビレイとなる。2P目は杉山さんのリード。左端から右端へと滝を横切るように右上しながら登っていく。じょじょに傾斜が落ち、サクサクと登っていく。再び急傾斜帯が始まる手前のテラスでピッチを切る。テラスに二人が集合すると暫し休憩する。居心地の良いテラスだ。3P目は再び私がリードする事に。傾斜のある段を、弱点を縫いながらの登攀となる。初めは左上し、それより左は氷が薄く、再び右トラバースを強いられる。最後は直上し、滝の落ち口を乗っ越し、丁度ロープいっぱいとなる。ルートファインディングが非常に楽しいピッチであった。終了点に二人が集合すると思わず「最高に楽しかったですね。」と言葉が出た。登攀具を片付けると､左岸を少し登り､登山道へと出た。その後、少し迷ったが50分程で車へと着いた。今回は心の底から楽しかったと思え、充実感いっぱいのクライミングであった。また、可能であれば毎年、訪れたいと思います。

体感グレード　1P目4～4＋､2P目3～3＋、3P目4～4＋
1～3P共に50mダブルにて目一杯